

山田線の活用促進に関する要望書

平成19年6月7日

岩手県知事 達増 拓也 様

盛岡にLRTを走らせ隊
代表 戸館 弘幸
TEL/FAX 019-622-3710
E-mail t-harollings@ictnet.ne.jp

○
岩手県勢の発展と県民福祉の向上に尽力されている達増知事様並びに岩手県職員の皆様に心から敬意を表します。

私たち、県都盛岡市の市街地の再生・活性化、ひとと環境にやさしいまちづくりに寄与することを目的として、盛岡市におけるLRTの導入を念頭に、まちのあり方と交通政策について調査検討するとともに、これらに関する普及啓発、行政機関への提言などの各種事業に取り組んでいる市民グループです。

このたび、こうした活動の一環として、山田線の活用促進について下記のとおり盛岡市に要望いたしましたので、県都盛岡市が県勢発展に果たす役割や岩手大学・県立高校等の文教施設、県立中央病院など広く県民に利用される公共施設が山田線沿線に配置されることは踏まえていただき、県としての特段のご高配をよろしくお願ひいたします。

○ 記

- 1 山田線の活用促進について、市として早期に検討に着手すること
- 2 山田線を盛岡市の基軸交通機関として再生させる観点から高頻度運行、既存駅の利便性の向上（駆輪場の整備、上盛岡駅の駅北側へのホームの設置など）、新駅の設置（想定される新駅の例：夕瀬瀬町、岩手大学前、寺町踏切付近、紅葉が丘、落合橋付近など）について検討すること
- 3 上記2のような方策を講ずるに当たり、その効果等を検証するための社会実験の必要性について検討のうえ、必要な場合にはできるだけ早期に実施できることの取組むこと
- 4 上記実現のため、東日本旅客鉄道株式会社などの関係機関と精力的に協議・検討を行うこと

【要望の背景】

私たちは、これまでの自動車中心のまちづくりが都市機能の拡散、中心市街地の衰退を招いたと認識しており、盛岡市がもっと魅力のあるまちになるためには、中心市街地～盛岡駅～盛南地区の間にしっかりとした公共交通軸を形成し、そこに都市機能を集約することによって市民や観光客を含めた来盛者の利便性を高め、それに伴い交流人口が増加し、ビジネスチャンスが生まれ、さらに都市機能が集積していくといったような都市の成長サイクルをつくる必要があると考えています。

現在、盛岡市の公共交通はバスを中心に構成されていますが、私たちは、中量輸送で速達性、定時性に優れユニバーサルデザインのLRTを公共交通の基軸として盛岡市に導入することによって、既存の鉄道網と合わせた有機的・機動的な軌道交通網を構築することができ、これにバス路線の再編を組み合わせることにより、さらに理想的な公共交通体系を形成できると考えています。

しかしながら、路面軌道交通の歴史のないここ盛岡市において、LRTに対する市民の関心や理解は十分には深まっておらず、現段階において、盛岡市がLRTの導入を具体的に検討するには一定程度の難しさがあるものと推察しております。

こうした中で、盛岡市には山田線という十分には活用されていない大切な資産があります。

山田線は、本来、宮古地方との間の物資・旅客の輸送機關として創設されたものの、その後の自動車交通の進展によりその役割が縮小してきたものと存じておりますが、盛岡市内沿線においては、住宅地や大学、高校等の文教施設、県立中央病院などの公共施設が張り付いており、運行方法等の改善によってその交通需要を賄うことができれば、都市内の基軸交通機關として再生させることが可能であるとともに、公共交通を中心とした盛岡市のまちづくりに大きな役割を果たすことができるものと考えます。

以上のような考え方から、上記のとおり、山田線の活用促進について要望するものです。